

女子サッカー選手の男性文化化
A study of male culturization of female football players

1K08A042-1 大滝 麻未
指導教員 主査 寒川先生 副査 石井先生

【目的】

女子サッカーの日本代表チームである「なでしこ JAPAN」は、今年 W 杯制覇という偉業を成し遂げ、日本中を感動の渦に巻き込んだ。これをきっかけに女子サッカーに対する世間の注目は急激に高まり、メディアでの露出も W 杯前とは比較にならないほど増えたのだ。こうして世間の注目を浴び始めたなでしこ JAPAN なのだが、近年女子サッカー選手における著しい男性化の傾向を感じる。世界と戦うために身体が男性化してしまうのはやむを得ないが、それだけではなく、髪型や服装等の容姿を始め言葉遣いや態度にまでこの男性化は及ぶのだ。更に男性化は女子サッカー選手特有の新たなジェンダー観を作り出した。一般的なジェンダー観として男性と女性が性的な関係を結ぶことは人々に常識として受け入れられているが、近年新宿三丁目が繁栄したり性的マイノリティの公的な露出や世間の理解も変化しつつあり、当たり前が当たり前でなくなりつつある。しかし女子サッカー界で新たに生まれたジェンダー観は、これらの一般的なジェンダー観とも同性愛者が持つジェンダー観とも異質であるように感じられるのだ。そこで本論文ではまず男性化の実態について明らかにした上で、女子サッカーに見られるジェンダー観についてレズビアンが持つジェンダー観と比較しながら研究していく。

【方法】

著者が所属するア式蹴球部女子部員の日常生活や競技生活を観察することで、1 容姿、2 言葉遣い、3 態度の 3 つの項目に焦点を当てながら明らかにしていく。又、アンケート調査によって男性化の進行が部員のどれくらいの割合で浸透しているかを明らかにする。

女子サッカー界のジェンダー観については、実際にインタビュー形式で質問することで、同性愛者、特にレズビアンのジェンダー観と比較検証することで、その特徴や性質について明らかにしていく。

【結果】

ア式蹴球部女子部員の競技生活や日常生活を観察することで、選手によって大きく個人差はあ

るものの、部全体で男性化が見られそれが浸透していることがわかった。こうして男性化が進行した選手の中には「身」も「心」も男性に近づき、女性と関係を結ぶケースも多くある。これが女子サッカー界のジェンダー観であるのだが、これは一般的な同性愛者とは、本人同士の認識の違いや、将来の姿という点で異質なものであり、新しいジェンダー観であることがわかった。

【考察】

女子サッカー選手の男性化が進行していく理由としていくつか挙げることが出来る。学校の規則や、周りの環境等の外的要因によってやむを得ずそうなってしまうことや、憧れの対象が有名な男性プレイヤーであるケースが多いこと、又は女子サッカーチームがプロ集団化し、整った環境で毎日練習をしている選手と一般女性の身体付の差が著しい事で男性的な印象を受けるといったことも理由として挙げられる。又、「サッカー＝男性のスポーツ」といった、長い年月をかけて作り上げられた常識に対する反発や、他とは違う自分のアイデンティティーの確立といったことも男性化の背景として考えられるであろう。

女子サッカーで生まれた新たなジェンダー観はまさに男性化が産んだ産物であり、心までもが男性化されてしまうことが、女性との関係を持つことの背景の一つであると考えられる。「メンズ」という言葉が生まれたのは、容姿は男性らしくても性的対象は男性である選手と、性的対象が女性である選手とを区別するためだ。又、こうした新しいジェンダー観が女子サッカー界で黙認され、一般化されていることでこうしたカップルは承認され、増え続けていく。これらのカップルの多くは将来について割り切っていて、今を楽しむための関係であることはレズビアンとの大きな違いの一つであり、同性愛者としてくくることは出来るのだが、その性質は大きく異なり別物としてみなすことが出来ると思う。

